

(3) 2021年(令和3年)2月22日(月曜日)

物流Weekly

ユーエィ 雄島社長 積極的に新分野参入したい



雄島社長

約6000種類のキャスターを扱うメーカーであるユーエィ(雄島耕太社長、大阪府東大阪市)。国内のほか、中国の蘇州にも製造拠点を持つ同社にとって、昨年は新型コロナウイルスの影響がさまざまな部分に及んだ1年となった。今年、コロナとの闘いも2年目を迎え、雄島社長は「厳しい現状をもチャンスと捉え、これまで進出していなかった分野にも積極的に参入したい」と話す。雄島社長に昨年を振り返ってもらい、今後の展開などについて聞いた。

コロナ以前は、国内のみならず海外にも積極的に出荷し、製品の打ち合わせを行ってきた雄島社長。しかし昨年はコロナで状況が一変し、密なやりとりができない状況に置かれた。テレワークなどの難しさも実感したという。

また、「豊富な製品ラインアップからニーズに合わせたキャスターを国内外に届けている自負があるため、今回のような事態が今後も起こった際に、海外生産分を国内でも対応できるような体制づくりが目標。今年は

原材料高騰による製品価格への影響などが懸念されるが、45期に向けて良い締めくくりができれば」と話す。

メーカーとして、解決できることにはできるだけ応えたいという気持ちをお忘れないう雄島社長。今年、特に力を入れて売り出していくのは昨年発表した統合型センサネットワークシステム「ユーエィ・ツナガル・システム」と、運搬作業の効率化に役立つと好評を博している「段差乗り越えキャスター」だ。

4月から販売が本格化される同システムは、同社がこれまで培った確かな技術力があるからこそ実現した事業領域の拡大の1つだ。システムの構想は約10年で、既に多くの企業から問い合わせが相次いでいる。「段差乗り越えキャスター」は、後輪が「段差に押し返される力」を、前輪が「路面を押しす力」に変換し後輪が持ち上がるという、キャスターの可能性を広げた製品の1つとなった。独自の製品を生み出せるのも、営業部門と技術部門の緊密な連携があるからこそと言える。

雄島社長は今後の目標として「グループ総売上高を1000億円に伸ばすことを目標に、今後も新市場の開拓を行っていく」と締めくくった。(木村麻理奈)